行動の老施協
Japanese Council of Senior Citizens Welfare Service
JS
URL:https://www.nara-roushikyo.jp/
奈良県老人福祉施設協議会 検索

奈良県老施協
あおによし

No. 39
2023年

奈良県老施協
マスコットキャラクター
「いち奈ちゃん」

野迫川村　立里荒神社　霧氷

もくじ

●「そのひとの『ものさし』を使い続けること」……1
●令和4年度奈良県老人福祉施設協議会事業報告（4月～12月）……2
●研修報告（第34回奈良県老人福祉施設職員研究会議）……4
●活動報告（なら介護の日2022記念シンポジウム報告）……5
●人財のはぐくみ……6
●プチっと講座……7
●編集後記……7
●広告「しせつの損害補償」……8

「そのひとの『ものさし』を使い続けること」

奈良県老人福祉施設協議会
副会長　山本　忠行

昨年11月14日のNHK「クローズアップ現代」は衝撃的だった。「親のお金をどう守る－認知症600万人の資産管理」というタイトルのその回の冒頭で、わが国の成年後見制度が「差別的な制度」として国連から撤廃を勧告されたと報じたのだ。

20数年前、「社会福祉基礎構造改革」により、わが国の社会福祉の仕組みが、いわゆる「措置から契約へ」という大転換を遂げ、介護保険制度がスタートした。それまで行政の判断に依っていた福祉サービスの利用が、利用者の自己選択･自己決定に委ねられることとなり、その一方で認知症や知的障害の人など、判断能力が十分でないと考えられる人々が、権利を行使できなかったり侵害されたりするのを防ぐために整備されたのが、成年後見制度である。当時から自己決定と権利擁護は「車の両輪」とされてきたものだ。

その成年後見制度が「差別的」だと糾弾されるのは、どうしたことだろう。

日本の成年後見制度は判断能力が不十分な人に代わって、その人に「最善の利益（ベスト･インタレスト）」となる決定を行うことを目指すものだが、では何をもって「最善」とするのか、あるいはそれをどのように導くのかが問われているのではないだろうか。

何時に起きるか、何を着るか、何を食べるかという日常的なものから、職業や結婚のようにライフステージに関わるものまで、人が生きていくということは大小さまざまな選択と決定の連続だ。そしてそのたびに人は、そのひと固有の「ものさし」を用いる。「ものさし」は一般的には価値観と呼ぶのだろうが、その人が生まれてから今日までの様々な体験と、そこからの気づきや学びをとおして形づくられていくもので、とうぜんに自分と同じものさしを持つ人はいない。自分のものさしとて、本日現在の暫定型だ。今後も少しずつ形を変えていくだろう。

さて利用者の人生や生活に関わろうとするとき、福祉専門職は自分のものさしは家に置いていく。そのとき用いるのはその利用者のものさしだ。その人の人生、その人の暮らしなのだから、福祉専門職のものさしの出る幕はない。

だったら自己選択･自己決定が困難な人についても、その人の人生や生活の選択にはその人のものさしを使い続けるべきだろう。それが困難だからといって客観的･最大公約数的な価値観による他者決定に委ねてしまうのは、「その人のために」と善意に基づきながらも、結果としてその人の自己決定権を、ひいては個人の尊厳を損なうことにもなりはしないか。

その人が誰であれ、どんな状況であれ、利用者の「ものさし」を探し続けること、使い続けることをあきらめない。私たち福祉専門職の専門性は、そんなところにもあるのかもしれない。

令和4年度奈良県老人福祉施設協議会　事業報告（4月～12月）

4月

●生活相談員るいとも（第40回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会
開催日：令和4年4月15日（金）
テーマ：「ソーシャルワークの基礎」
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授　一村　小百合 氏
参加者：23名

6月

●生活相談員るいとも（第41回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会
開催日：令和4年6月24日（金）
テーマ：事例検討会「認知症の人へ真実を伝える」
～認知症の母に私の病気を伝えるべきなの～
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授　一村　小百合 氏
参加者：30名

●令和3年度施設状況調査／サービス向上委員会
調査時期：令和4年6月29日(水)～7月25日(月)
調査内容：定員数／入所者の状況／ショート利用状況／待機者数／職員の状況／職員の採用状況／加算・減算の算定状況／外国人介護人材の受入状況／第三者評価の受審等の状況 等

8月

●介護職員実践講座（第1回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会
開催日：令和4年8月4日（木）
テーマ：「介護に必要な制度の理解」
「介護の基本（尊厳・倫理）」
講　師：桃山学院大学社会学部社会福祉学科
非常勤講師　塩田　祥子 氏
参加者：21名

●施設長県内研修(YouTube動画配信研修)
／テーマ別研修委員会
配信期間：令和4年8月18日(木) ～9月20日(火)
テーマ：「管理者のストレスケア」
～よりよい職場環境作りへ向けた
ストレスケアを学ぶ～
講　師：臨床心理士／公認心理師　石上　友梨 氏

石上　友梨 氏

視聴回数：前・後編合計 129回

●生活相談員るいとも（第42回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会
開催日：令和4年8月19日（金）
テーマ：事例検討会
「ペットと一緒にショートステイへ」
～ピーちゃんと離れたくない～
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授　一村　小百合 氏
参加者：10名

9月

●事務職員研修(YouTube動画配信研修)
／職種別研修委員会
配信期間：令和4年9月1日(木) ～9月22日(木)
テーマ：「おさえておきたい人事労務関連法改正」
講　師：社会保険労務士中村事務所　副所長　中村　守 氏
視聴回数：92回

中村　守 氏

●介護職員実践講座（第2回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会
開催日：令和4年9月8日（木）
テーマ：「リスクマネジメントと介護職員の健康管理」
講　師：デイサービスセンターゆぁほうむ榛原
副施設長　松田　慶 氏
特別養護老人ホーム延寿　主任生活相談員　小河　良 氏
テーマ：「チームケア」「記録の書き方」
講　師：テンダーヒル御所わかば館　館長　鶴田　浩史 氏
参加者：21名

●介護福祉士ファーストステップ研修修了者フォローアップ研修
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会
開催日：令和4年9月21日（水）
内　容：講義・演習
講　師：社会福祉法人カトリック聖ヨゼフ・ホーム
総合施設長　平岡　毅 氏
参加者：12名

●機関紙「あおによし」の発行／情報発信委員会
第38号　令和4年9月発行
発行部数　2,400部
配布先：会員施設、各市町村行政、老人福祉センター、各市町村社協、学校、地域医療連携室 等
879ヶ所

10月

●令和5年度施策並びに予算に関する要望書提出
／サービス向上委員会

令和4年10月7日（金）に奈良県知事・奈良県議会議長・奈良県議会厚生委員会委員長、令和4年10月26日（水）に奈良市長・奈良市議会議長・奈良市議会厚生消防委員会委員長に対して「令和5年度施策並びに予算に関する要望書」を提出

●介護職員実践講座（第3回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会

開催日：令和4年10月12日（火）
テーマ：「高齢者の病気の理解」
講　師：一般財団法人信貴山病院法人本部　経営企画室 室長
特別養護老人ホームハートランド五條　施設長代行
関本　太志 氏
テーマ：「高齢者のからだと機能訓練」
講　師：総合リハマネジメント研究所 所長　本村　清二 氏
参加者： 26名

●生活相談員るいとも（第43回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会

開催日：令和4年10月21日（金）
テーマ：「事例検討会の振り返りとやり方」
助言者：関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科
准教授　一村　小百合 氏
参加者：5名

●テーマ別研修(YouTube動画配信研修)
／テーマ別研修委員会

配信期間：令和4年10月26日(水）～11月25日(金)
テーマ：「社会福祉法人等におけるBCP策定」
講　師：佛教大学 専門職キャリアサポートセンター
専任講師　後藤　至功 氏
視聴回数： 前・後編合計 184回

後藤　至功 氏

11月

●「なら介護の日2022」啓発活動事業／情報発信委員会

※５ページ参照

令和4年11月3日(木)開催「なら介護の日2022」の啓発活動事業へ参加

●第34回奈良県老人福祉施設職員研究会議
（Zoomオンライン研修）／テーマ別研修委員会

※４ページ参照

開催日：令和4年11月8日（火）
テーマ：「コロナ禍　さあ、次のステージへ！！」
～培ってきたノウハウを活かそう～
内　容：基調講演、施設実践発表
参加者：140名

●介護職員実践講座（第4回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会

開催日：令和4年11月17日（木）
テーマ：「認知症ケア」
講　師：認知症介護指導者、総合老人福祉施設テンダーヒル御所
施設長　山本　忠行 氏
テーマ：「口腔ケア」
講　師：特別養護老人ホームあじさい園 園長　松村　清子 氏
参加者：26名

●生活相談員研修（Zoomオンライン研修）
／職種別研修委員会

開催日：令和4年11月30日（水）
テーマ：「介護ロボット・ICT導入における実践事例を学ぶ」
内　容：
発表１（移乗リフト導入例）
養護老人ホーム聖ヨゼフ・ホーム　主任生活相談員　川野　舞 氏
発表２（インカム導入例）
特別養護老人ホームゆぁほうむ榛原　副施設長　木島　義知 氏
発表３（タブレット導入例）
特別養護老人ホームあくなみ苑 介護リーダー　宮北　典子 氏
参加者：30名

12月

●介護職員実践講座（第5回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会

開催日：令和4年12月2日（金）
テーマ：「看取りケア」
「利用者の死の向き合い方とメンタルヘルス」
講　師：医療法人ハートフリーやすらぎ　訪問看護ステーション
常務理事兼統括管理責任者　大橋　奈美 氏
参加者：24名

●施設長連絡会議・特別養護老人ホーム部会研修
（Zoomオンライン研修）／特別養護老人ホーム部会

開催日：令和4年12月22日（木）
テーマ：「医療・介護のICT」
～宇陀けあネットの取り組みについて～
講　師：宇陀市建設部まちづくり推進課 主幹
一般社団法人宇陀地域医療・介護連携ネットワーク
運営協議会　山岡　茂之 氏
参加者：84名

山岡　茂之 氏

●生活相談員るいとも（第44回）
（Zoomオンライン研修）／職種別研修委員会

開催日：令和4年12月23日（金）
テーマ：事例検討会
「施設で暮らしたい本人様と在宅で看たい妹。どこで生活を送るのがいいのか」
参加者：5名

研修報告　第34回奈良県老人福祉施設職員研究会議

開会式の様子

第34回奈良県老人福祉施設職員研究会議は、新型コロナウィルス感染症対策を万全にし、会場参加とWEB参加のハイブリッド形式で、臨場感のある開催となりました。

この度は、SDGsへの取り組みから、資料をデータ配布し、当日の内容を後日オンデマンド配信するという新たな試みであり、今出来得る限りの前向きな研究会議として、コロナ禍における経験や当たり前の実行とイノベーションの追求を共有していきたいとの思いで企画致しました。本研究会議運営に尽力頂きました皆様に、心より御礼申し上げます。

当日は、オンラインにてご来賓のご祝辞を賜り、ご活躍頂いた皆様への感謝状授与式を行いました。

山崎　亮　氏

山崎亮講師のオンラインでの基調講演では、動機型で開催することの意義と楽しさを感じさせて頂きました。また地域づくりにおいては、地域住民をお客様にせず、顔の見える関係が大切であるということから、最新のテクノロジーの思考まで幅広く教えて頂きました。

実践発表では、７施設８つの多角な取り組み事例が発表されました。コロナ禍を乗り越えた強さとたくましさや知恵と工夫、そしてご利用者へのたっぷりの愛情が感じられる発表となりました。参加者にとっては、新たな気づきと知識を得、明日への頑張れる元気を頂戴できた機会となりました。発表者及び送り出して頂きました発表施設に感謝申し上げます。

ウィズ・ポストコロナ、苦しめられてきた3年間。これらのことが特別な事ではない世の中に、地域や社会が自然と移行していく時期がそこまできています。

これまでの経験や発表が、お互いの成長に繋がる研究会議として、将来希望の持てる福祉業界にさらに発展する事を期待し、御礼とご報告とさせて頂きます。

テーマ別研修委員会　委員長　中西　幸有里

開催日：令和4年11月8日（火）
会　場：奈良県社会福祉総合センター・大ホール
参加者：140名（会員57施設、会員外5施設、行政等3名）
テーマ：「コロナ禍　さあ、次のステージへ！！」
　　～培ってきたノウハウを活かそう～
内　容：基調講演
　　「コロナ禍における新たな地域づくり」
講　師：studio-L代表／関西学院大学建築学部教授コミュニティデザイナー／社会福祉士　山崎　亮 氏
施設実践発表：7施設・8発表

①「高齢者入所施設における新型コロナウイルス感染症クラスター発生事例の報告」
　～新型コロナウイルス感染症クラスターから学んだこと～
　特別養護老人ホーム室生園

②「クラスターからの学び」 ～改クラスター対応～
　特別養護老人ホーム学園前西

③「マスクの下の笑顔を伝える」
　～感染予防対策を続ける中で、ご利用者・ご家族の笑顔を求めた持続可能な取り組み～
　社会福祉法人綜合施設美吉野園

④「排泄介護の改善で入居者の生活と介護業務の質改善」
　～排泄用品の見直しで介護の改善を～
　特別養護老人ホームグレースの里

⑤「課題への取り組み方」
　～不眠対策から拘縮進行～
　特別養護老人ホームぽれぽれケアセンター白橿

⑥「その人が望む暮らしを知るために」
　～暮らしを施設内で完結させない介護～
　特別養護老人ホーム祥水園

⑦「当法人におけるノーリフティングケアの実際」
　～ノーリフティングケア宣言までのプロセスを中心に～
　社会福祉法人綜合施設美吉野園

⑧「青色と黄色のグラフから見えたこと」
　～眠りSCANを取り入れて得られた成果とは～
　特別養護老人ホーム延寿

施設実践発表の様子

活動報告 <なら介護の日2022記念シンポジウム報告>

２０２２年１１月３日（木・祝）なら１００年会館・中ホールにて、記念シンポジウムに県内高齢者福祉施設の代表として、登壇（シンポジスト）させていただきました。

今回は、初めての試みとして種別を横断した各立場からの情報共有の場が設けられました。

パネリストのメンバーは、

安東範明（奈良県医師会）

山岡　亨（手をつなぐ育成会理事長）

東　真理（桜井市地域包括支援センターのぞみ）

福井修平（聖ヨゼフ・ホーム施設長）でありました。

コーディネーターは、

村上良雄（奈良県介護の日実行委員会委員長）

でありました。

テーマは、「何が起きていたのか？～コロナ禍の奈良県のケアの現場で～」で、高齢者施設や障がい者施設、在宅の現場で活躍する方々をシンポジストに迎え、新型コロナウイルス感染症によってケアを担った人たちの状況はどうだったのか、その状況をどう乗り越えたのかという情報を共有し、今後に備えるための機会でありました。

登壇者からの主たる報告内容としては、①医療・介護の現場で何が起きていたのか。②それにどのように対応したのか。③課題や問題点は何だったのか。その教訓を次に活かすにはどのようにすればいいのかでありました。

先ず、安東先生からは、新型コロナウイルスに関しての時系列的な経緯の話がありました。三年前、中国で分からないウイルスがまん延し、日本に入り、奈良県で初の感染者が確認された。その後、奈良県内での医療現場の実態・どのように患者さんを受け入れていったのかをスライドを使い説明いただきました。最後には、ワクチンの有効性についても説明をされました。

山岡さんからは、障がい者施設でのクラスターについての話があり、東さんからは、在宅介護での新型コロナウイルス感染者への対応をどのようにされたのかという話がありました。

私の方からは、奈良県老人福祉施設協議会の内容説明とホームページの紹介を行い、情報共有・協力体制の構築がなされていることを説明させていただきました。次に、養護老人ホームの役割を伝え、養護老人ホームが故に困った事や感染対策が難しかった事などを説明。養護老人ホーム　聖ヨゼフ・ホーム内の写真を投影し、施設内の雰囲気を皆さんに知っていただくと共に、お部屋（全室個室）の様子や食堂・フロア・廊下・お風呂（個浴・機械浴）の説明をさせていただきました。聖ヨゼフ・ホームでは、ユニットケアは取り入れてはいませんが、ユニットで分けているので介護居住区でのクラスターについての説明になりました。

クラスターが発生した２０２２年３月８日から３月２８日までの期間、入居者さん１１名・職員１名が罹患しました。うち、入居者さん３名は入院され、あとの８名の入居者さんは聖ヨゼフ・ホームでの療養となりました。入居者さんの要介護度は１～４までの方々で、ほぼ認知症の症状を有する方でもありました。認知症の症状がある方は、マスクは嫌がられる方も多く、マスクそのものの理解が難しく、着用していただく言葉かけやマスクを持って行くと強く拒否（怒られたり、暴れられる）される方もいました。個室から出てこられ、他の方の部屋（罹患されていない方）に入られたり、いろんな所を触られたりすることによって感染が拡大します。

何度も手指消毒を行っても次から次へと触られるので、消毒することばかりになります。使い捨てガウン（ビニール）を着用し、キャップ・フェイスシールドを身につけていると３月でも暑くて体力的にも精神的にも疲弊しました。職員のメンタル面の管理は困難を極めました。今回は職員１名の罹患でありましたが、複数人となると応援を頼まざるを得ない状況でした。聖ヨゼフ・ホームでは、法人内で平岡総合施設長が中心となり、法人間での応援態勢を準備しています。

日頃からの初動体制訓練・医療との連携・地域の方々との連携が大切になってきます。今回、「介護の日」に医療現場と介護現場での現状や今後の課題を話し合えたことは本当に貴重でありました。シンポジウムでも伝えましたが、これからも奈良県民の皆様方に“福祉”を届けて参りたいと思います。

養護老人ホーム　聖ヨゼフ・ホーム　施設長　福井　修平

法人ホームページ
https://www.yozefu-home.or.jp/

養護老人ホーム
聖ヨゼフ・ホーム動画

～人財のはぐくみ～　第2弾　『外国人スタッフと共に歩む』

人財のはぐくみコーナーでは、“介護・福祉の魅力の発信”をテーマに、施設職員の生の声をリレー形式で掲載していきます。

第２弾は、『外国人スタッフと共に歩む』と題し、大和郡山市にある特別養護老人ホームウェルケアはるかで働く外国人スタッフ・日本人スタッフの皆さんにインタビューを行いました。

現在、特定技能実習生等8名が勤務しています。独自の「介護プロ」というキャリアパス制度により、現場での指導にとどまらず、各々のスキルや評価の見える化をおこない、キャリアップ支援を行っています。制度があることで、将来の目標とやるべき事が明確になり、介護福祉士を目指す方も多くおります。

また、生活面においても外国人寮を整備し、通勤しやすい環境を作っています。寮長制度を設け、自分たちで掃除やゴミ出しなどのルールを作り、ご近所の方々とも良い関係が築けています。安心して生活を営むことが出来、奈良が第2の故郷となるよう願っています。

◎外国人スタッフに介護の仕事の魅力、仕事の覚え方、大変な事等を聞きました。

・お世話して喜んでもらえるところが嬉しくて、しんどく思うことはありません。
・介護の仕事は全て好きで、毎日が楽しいです。
・ご利用者様のお話が分からない時があるので、日本語を上達したいです。
・母国の祖父母や父母の世話が出来るようになるのが嬉しいです。
・自分で決められない事が出てくるので、早く判断出来るようになりたいです。
・現場でプリセプターが指導の時、根拠を教えてくれるのでよく理解出来ます。
・ご利用者様の状況に応じて内容を考えてコミュニケーションを取ることが勉強になります。
・やる気が1番に大事、分からない事は聞いています。ストレス解消しているので困ることはありません。
・後輩に技術やコミュニケーションの取り方等の指導をしていけるのが喜びになっています。

◎指導担当者にレクチャーのポイント、工夫していること、日本人スタッフに与えた良い影響等を聞きました。

・慣れるまでは特に緊張しないよう、リラックスして仕事に入れるように気を付けています。
・出来る事を１つずつ増やしていきます。復習して覚えてくれます。
・向上心が強いので、分からない事は聞いてくれるし、本やネットで調べて勉強しています。
・介護技術指導時には、必ず“なぜ必要なのか”と根拠を伝えています。
・実習生の先輩が指導してくれて、後輩がその姿を目指しています。
・実習生の先輩は、日常生活の問題も聞いて解決してくれています。
・個性を活かすように考えています。介護のセンスの高さを引き出していきたいです。
・明るく、やさしく、丁寧だとご利用者様は喜ばれています。
・真剣で一生懸命な姿に日本人スタッフは、自分も頑張らねばという空気になっています。

特別養護老人ホームウェルケアはるかホームページ
https://wellconsul.co.jp/main/shisetu/tokubetsukeayu.html

特別養護老人ホームウェルケアはるか　施設長　**井村　英津子**

プチっと講座　「オレンジカフェ すいもん」
～ 奈良の大仏様のおひざもとでほっこり ～

「オレンジカフェ(認知症カフェ）」（以下､「カフェ」という。）とは、認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の人など、誰もが気軽に参加できる「集いの場」です。認知症に理解のあるスタッフが、茶菓や食事の提供を受けながら、おしゃべりしたり、医療や介護の専門職などに日頃の悩みを相談したり、介護などの情報交換や地域の人と交流もできるよう、カフェ全体が認知症の人やその家族が過ごしやすい環境となっています。認知症の人、自分が認知症ではないかと不安を持っている人やその家族が、安心して話をすることができるため、認知症の人にとって心地よい居場所となるとともに、認知症の人とその家族を地域で支えるための関係づくりの拠点となるものです。

今回は、奈良市にある「オレンジカフェすいもん」の取り組みをご紹介します。

「オレンジカフェすいもん」は、世界遺産である東大寺大仏殿から南西へ徒歩３分、豊かな自然に囲まれた奈良公園の中にあります。掘りごたつのある和室、明るい洋室、かやぶきの離れなど、それぞれのお部屋のしつらえや、お庭の手入れをボランティアさんとスタッフが一緒に相談しながら季節ごとに整え、お客様に古都奈良の落ち着いた雰囲気を満喫していただいています。地域住民の皆さま、カフェを楽しみたい方、どなた様も気軽に立ち寄れる安らぎの場、交流の場となっています。歴史を肌で感じながら、安心できる空間でリラックスしたり、お仲間との交流を楽しんだり、活動を通して元気になったり、新しい出会いがあったりします。

３つの特徴

カフェすいもん　外観

「しゃべり場」

①感動と笑顔で心はポカポカ

認知症家族の会主催の「しゃべり場」、田原地区新鮮野菜販売、介護予防体操、クラフト教室、手作り教室、お茶会、二胡教室、チェロ教室、哲学講座、運営推進会議等、コロナ禍ですが、感染対策をしっかり行い、できる範囲で活動を継続しています。

②パティシエ手作りのおいしいケーキ

ガトーショコラ、スフレチーズケーキ、シフォンケーキ、アーモンドケーキ、ババロア、ショートケーキ、レモンケーキ、テイラミスケーキ、アップルパイ、フルーツロールケーキ…。パティシエ手作りの楽しいケーキを日替わりでご用意しています。

③懐かしさとパワースポット

掘りごたつのある和室では懐かしさを体験、季節ごとのしつらえや、明治ガラスからゆらいで見える庭も楽しめます。梅、桜、柿、栗、ゆず等、大きな木や四季折々の草花、パワースポットもあります。時には鹿さんも遊びに来ています。

＜松村圭祐理事長インタビュー＞

「感謝・機転・謙虚・笑顔・清潔」を基本理念とした社会福祉法人晃宝会（あじさい園・あじさい園宝）の地域貢献事業の一環として認知症カフェの運営をしています。晃宝会として認知症予防への取り組みを一層強化し、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる共生社会を目指しています。認知症は多くの人にとって身近なことであると互いに理解し、運動不足の改善、生活習慣病の予防、社会参加、孤立の解消、役割保持を自然に実現できる場づくりをしています。ここ「すいもん」で皆さまが楽しいひとときを過ごして下さることを願っています。

オレンジカフェすいもんホームページ
http://www.ajisaien.or.jp/suimon.html

オレンジカフェすいもん
パティシエ　仲谷　聡美

編集後記

今年の大和平野の冬は例年にない極寒でしたが、立春も過ぎ、吹く風も何かしら温かく感じる今日この頃ですが、新型コロナウイルスによる感染、クラスターの発生による入居者・家族・そして施設職員の恐怖と心労は、3年目の冬を越し極限の緊張が続いた日々の中、5月8日頃をもって、２類感染症から５類感染症に引き下げになるというニュースに何かしら、春を待ちわびる気持ちにも似た歓びを感じます。

福祉にたずさわる私の好きな言葉「人は人のために生きてこそ人」。

どうか奈良県老施協会員の皆様、今後も無理をせずがんばりましょう。

情報発信委員会　副委員長　林　芳繁

令和４年度　**新型コロナウイルスを含む特定感染症に対し、新たなオプションが追加されました**

ホームページでも内容を紹介しています
https://www.fukushihoken.co.jp

社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

（賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、動産総合保険、費用・利益保険）

❶ 基本補償（賠償・見舞費用）

保険期間１年

▶保険金額

		基本補償（A型）	見舞費用付補償（B型）
賠償事故に対応	身体賠償（１名・１事故）	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償（１事故）	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中）	200万円	200万円
	うち現金支払限度額（期間中）	20万円	20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失（期間中）	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償（期間中）	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用（期間中）	500万円	500万円
	被害者対応費用（１名につき）	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

●オプション１ ●訪問・相談等サービス補償

●オプション２ ●施設の医療事故補償
- 医務室の医療事故補償
- 看護職の賠償責任補償

●オプション３ ●施設の借用不動産賠償事故補償

●オプション４ ●クレーム対応サポート補償

NEW

●オプション５ ●施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

❶休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償

❷消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償

❸感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

❷ 個人情報漏えい対応補償　❸ 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償

（普通傷害保険）

❶ 入所型施設利用者の傷害事故補償

❷ 通所型施設利用者の傷害事故補償

❸ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 職員等の補償

（労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険）

❶ 職員の労災上乗せ補償
- ●オプション：使用者賠償責任補償

❷ 役職員の傷害事故補償

❸ 役職員の感染症罹患事故補償

❹ 雇用慣行賠償補償

プラン4 法人役員等の補償

（役員賠償責任保険）

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者　**社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店　**株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の 9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

（SJ21-12224 から抜粋）